

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ数
視能訓練士	1名
歯科衛生士	3名（常勤2名 非常勤1名）

【視能訓練士】

＜特色と概要＞

救命救急センターに搬送された頭部外傷などによる眼窩骨折や脳疾患の患者の眼科検査、全身疾患に合併する眼疾患、眼症状や眼疾患のある患者の眼科検査を行っている。

また、健診や人間ドックをはじめ、航空身体検査やVDT検査（情報機器作業に関する健康診断）などの特殊な眼科健診の検査も行っている。

当院における検査項目は、視力検査、屈折検査、眼圧検査、視野検査、眼位・眼球運動検査、視神経検査、眼球突出度検査、両眼視機能検査、調節検査、色覚検査、網膜電図検査、角膜形状解析検査、角膜内皮検査、眼底写真撮影検査、眼底3次元画像解析検査などである。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

医師・看護師と連携して、安全で円滑に外来診療が行えるように協力し合うことで、チーム医療の実践ができた。

患者の全身状態を考えながら、検査の優先順位を組み立て、限られた時間で必要な検査を行えるように努めた。

一方で、日々の外来診療において、待ち時間が少なくなるように、医師・看護師と調整しているが、検査が集中した時は、待ち時間が発生していることが反省点である。検査の待ち時間が発生した場合には、患者に説明と案内を声かけすることで、大きなトラブルなく、受け入れができた。

さらに、円滑に検査の受け入れができる体制を作り、患者への負担を軽減し、効率よく検査を行うことで、患者サービスの向上につなげる。

視能訓練士として検査を行うだけでなく、患者の不安を取り除けるように寄り添い、患者の負担を少しでも軽減できるように検査を行っていきたい。

また、検査の精度を高め、少しでも医師の診断の助けになるように、視能訓練士として眼科診療における役割を果たしていきたい。

【歯科衛生士】

＜特色と概要＞

泉州地域の中核病院である当センターにおいて顎・口腔領域の外科を専門とする口腔外科に従事し、主に下記の診療にあたっている。

- (1) 一般歯科医院での治療が困難な患者の診察や外来小手術の診療補助
- (2) 入院患者の歯科治療の診療補助、専門的口腔ケア
- (3) 全身麻酔手術や化学療法、放射線療法を受けられる患者の口腔衛生指導、専門的口腔ケア
- (4) 周産期センターにおける両親学級での口腔衛生指導

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

・外来小手術の補助2,376件

・周術期口腔機能管理（口腔ケア）

消化器外科419件 呼吸器外科31件 乳腺外科91件

心臓血管外科4件 整形外科1件

血液内科27件

・その他の口腔機能管理（口腔ケア）101件

1、口腔機能管理

周術期口腔機能管理では引き続き、消化器外科に加えて呼吸器外科、乳腺外科が増加し、血液内科における造血幹細胞移植も増加

周術期以外の口腔機能管理についても経口摂取困難や著しい口腔乾燥を呈する患者やステロイド療法導入前のスクリーニングに伴う口腔ケアの依頼が増加

2、多職種連携の推進

- ① 毎週金曜日の病棟連携カンファレンスに参加
- ② 患者教育媒体として歯科パンフレット、デジタルサイネージの作成
- ③ 看護師へのOHAT評価方法、口腔ケアの指導
- ④ 口腔ケアE-Learningの作成

3、両親学級

妊産婦を対象にハイブリッド（現場とZOOM）で口腔衛生指導、その際に使用する患者用パンフレットの再編やパワーポイントの内容更新

現在、歯科医師5名（常勤3名 非常勤2名）による診察と小手術の診療補助に対応しつつ、増加傾向にある周術期口腔機能管理を含む口腔ケアを3名で対応している。

今後の診療室拡充、マンパワーを念頭にのいた歯科衛生士の増員、体制強化を目指し、チーム医療の一員として歯科衛生士の役割を果たしていきたい。